



(上から)震災直後の熊本城、加藤神社、阿蘇神社。
熊本城と阿蘇神社の変わり果てた姿は、県民に大きなショックを与えました。



醍醐寺のクローン桜

発行元 本蔵院「数々修習」編集室
(担当／宮本ゆりこ)
〒860-0811 熊本市中央区本荘6-15-50
TEL 096-364-4848 / FAX 096-364-9570

本蔵院も堂内の仏像、仏具、書棚等が損傷するなどの大きな被害を受けました。さらに、県との調べによると、県内千力所を超える神社仏閣が倒壊し、再建や修復が必要な状態ということ。特に県民の心のよりどころでもあった熊本城および阿蘇神社が激しく損壊したことは、皆さんもよく知ることだと思えます。この神社仏閣の一刻も早い復興を願わずにはいられません。

さて、本蔵院は京都の総本山醍醐寺の末寺で、この宗団を醍醐派といいます。醍醐寺には、全国の醍醐派の青年僧侶で組織する青年部「醐山青年連合会(以下、醐青連)」がいます。私はこの醐青連の副理事長および九州支部の支部長を兼任しております関係で、震災前、熊本県の霊山で修行を行う企画を立てておりました。

と言いますのも、総本山醍醐寺は、役行者(えんのぎょうじゃ)が開かれた修験道の本山でもあります。よって我々醍醐派の僧侶は、修験道

つまり山伏の修行も行います。そのため、富士山をはじめとする日本各地の霊峰を修行の場としています。

しかしながら、今回の地震を受け、震災前に立ち上げた企画は一旦中止に。被害を心配してくれた醐青連の仲間たちが遠くは青森から、多方面より熊本に来てくださいました。私はこの仲間たちと支援を行うなかで、仲間たちとともに醍醐派の僧侶としてこの熊本に何かできないかと考えるようになりました。

そこから私は、熊本城や加藤清正公、阿蘇神社などの歴史を紐解きました。そうすると、ある史実に出会い、ひとつのひらめきが生まれました。これは熊本に住む醍醐派僧侶である私、そして醍醐連の仲間にはできないことだという思いを抱きました。

それが、今回皆様にお知らせしたい「今、熊本に祈る「百螺祈願」という行事です。わが醍醐派を挙げての壮大な企画です。どうか皆様、以下の内容をお読みください。ぜひこの趣旨にご賛同いただき、お一人でも多くの方にご参加いただきますよう、切に切に願うものでございます。

合掌
第二十世住職 藏本崇正 拝

四

月に熊本を襲った未曾有の大地震。あれから早いもので五カ月が経とうとしております。被災された皆様が一日も早く日常生活に戻るよう祈るばかりでございます。

「今、熊本に祈る 百螺祈願」を執り行います

この秋 熊本地震からの復興を祈る



第二十世住職 藏本崇正

数々修習

vol.03

平成二十八年 初秋

- ・百螺祈願に向けてのご挨拶
- ・百螺祈願の歴史的背景と意義
- ・ツアー参加のお知らせ
- ・子ども山伏 参加者募集

数々修習とは？

道を求める事、つまり見道・求道を繰り返し繰り返し反復するという意味です。私住職もこのお便りと一緒に熟していければと思っています。

熊本地震が起きた今だからこそ実現を

「百螺祈願」の歴史的背景と意義

熊本城と加藤清正

上のご挨拶文の中で、私はある史実に出会ったと申し上げました。これは熊本では大変有名な史実であろうかと存じますが、浅学非才なものでこの史実を知り得なかったことは大変恥すべきことであります。

加藤清正公は、今から約四百年前の慶長年間に熊本城を築城されます。その築城に際し清正公は、龍蔵院という山伏を招き、地鎮祈禱の法要を営んでおられます。

この史実から、この祈りを現代に再現できないかと思いついたのが今回の企画です。醍醐派の青年僧侶約百名を、清正公を主祭神とする加藤神社に集結させ、今回の地震で傷ついた熊本を鎮める地鎮祈禱を行います。さらには、山伏百名による百丁の法螺貝を清正公に奉納し、一日も早い熊本および熊本城の復興の祈りを届けるものでございます。

阿蘇神社と阿蘇修験

阿蘇の信仰は、阿蘇山火口をご神体としています。その昔、阿蘇では阿蘇谷に鎮座する阿蘇宮(現在の阿蘇神社)と、阿蘇山上の坊中(山岳修験勢力)という二つの宗教拠点を持っていました。そのうち坊中と呼ばれる僧侶や山伏の坊舎は、現在の草千里付近に麓を並べていたとされます。

一説には、天竺からやってきた最栄という僧侶が火口近くで十一面観世音菩薩を感得し、それを祀ったのが起こりといわれています。実は、本蔵院はその流れを汲むお寺として伝わっており、本蔵院の山号は「最栄山」であり、本堂正面には「最栄室」という額が掛かっています。

昔、阿蘇にはいつも山伏の法螺の音が轟いていたに違いありません。私はこの歴史的

背景をふまえ、もう一度この修験の山に法螺の音を響かせ、阿蘇の神々に祈りを捧げるべきだと考えました。そこで阿蘇神社様へお願いをし、祈念法要を厳修させていただくことになりました。これもまた時代を超えた阿蘇の本来の姿を再現するものでございます。



醍醐の桜

総本山醍醐寺は、応仁・文明の乱で荒廃した際、豊臣秀吉の後援を受け再興した、秀吉ゆかりのお寺です。晩年、秀吉は醍醐寺にて「醍醐の花見」を行っていました。このとき秀吉は、畿内や奈良吉野の桜七百本を醍醐寺に移植させ、その桜を醍醐山の上から眺めたとされています。

醍醐寺には、秀吉が花見を行った桜の子孫であるクローン桜が植えられています。今回この桜を、秀吉から清正への贈り物として加藤神社と阿蘇神社にて植樹させていただきますことになりました。時代を超えて、熊本復興の新たなシンボルとしての地に秀吉の桜が咲くことになりました。

秀吉が愛でた花を最新技術で再現 醍醐寺のクローン桜

醍醐寺には「醍醐の花見」で秀吉が眺めたとされる桜の子孫である、樹齢150年のしだれ桜が残されています。枝いっばいに花を咲かせ、多くの参拝者の目をなごませます。このしだれ桜を住友林業株式会社および住友林業緑化株式会社がバイオ技術で増殖し、同じ遺伝子を持つ桜として生まれたのが今回植樹する「クローン桜」です。

この歴史的瞬間に参加しませんか 皆様とともに歩く「百螺祈願参拝ツアー」

11月
7日~8日
(月) (火)
開催

これまで述べた思いから執り行う百螺祈願。

日取りは11月7日、8日です。

初日は、本蔵院を出立、市街地一帯を徒歩練行し、加藤神社へ。

三日目は阿蘇市・国造神社を出立、涅槃像ともされる阿蘇五岳を眺めながら阿蘇神社へ向かいます。

各神社では、復興祈念法要ならびに醍醐の桜を植樹いたします。

本蔵院では、この百螺祈願に同行する「百螺祈願参拝ツアー」の参加者を募集しています。

両日の徒歩練行に参加し、祈念法要を見学するツアーです。下記をご覧ください。下記をご覧ください。



ツアー概要

本蔵院の檀信徒様を優先的にご案内しています。どうぞお早めにお申し込みください！

- 日程 / 2016年 11月 7日(月)~8日(火)【一泊二日】
- 基本代金 / 20,000円~27,000円(記念品、玉串料込み)を予定 ※九州復興に申請中です。9月中旬頃料金が確定する予定です。
- 定員 / 先着 40人
- お申込み・お問合せ / 日本内外旅行：TEL 0969-22-6000

※基本的に徒歩練行にご参加いただくプランです。祈念法要のみ参加の場合はバスでの移動になります。ご相談ください。 ※詳しいスケジュールについては、同送のチラシをご覧ください。

百螺祈願で先導する「子ども山伏」を募集します

百螺祈願の行列を先導する「子ども山伏」になってくれる子どもたちを募集します。山伏の衣装をつけて、一緒に歩きませんか。歩く時間は1時間程度です。たくさんのご応募お待ちしております。



募集要項

- 日 時 / 11月7日(月)
10時 本蔵院 集合
15時頃 加藤神社にて解散
※本蔵院から加藤神社まで1時間程度歩いた後、復興祈念法要を見学。
- 対 象 / 年中さん以上、小学6年生以下
- 定 員 / 20人(先着順)
※保護者の参加も可能ですが、列には入らず端をお歩きいただきますようお願いいたします。
- 参加費 / 3,000円(衣装代込・がんばり賞付き)
- お申し込み方法 / 096-364-4848にお電話のうえ、参加するお子さまのお名前、性別、年齢、身長、保護者の名前と連絡できる電話番号をお知らせください。

みんなの参加、待ってるよ☆

